

今月の
トピックス

JCOG2201 リンパ腫グループ 新規試験

リンパ腫グループの新しい研究であるJCOG2201「中枢神経系再発高リスクの未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する中枢神経系再発予防を組み入れた治療法のランダム化第III相試験(PREMIER)」が承認され間もなく登録開始となります。JCOG2201の研究事務局を務めます三重大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 宮崎 香奈と申します。

JCOG2201のコンセプト作成段階から承認まで、リンパ腫グループの先生方、JCOGデータセンター・運営事務局の皆様方より多大なるご支援、ご指導をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

本試験の対象である「びまん性大細胞型B細胞リンパ腫」は悪性リンパ腫の中の30%を占め、最も頻度が高い疾患です。化学療法がよく奏効し、現在の標準治療により約7割の患者さんで治癒が得られます。しかし約5%の患者さんで初回治療中から終了直後をピークとして中枢神経系への再発が生じ、その後の治療が難しくなります。このため現在は中枢神経系再発リスクの高い患者さんでは再発予防として、白血化を伴う他のリンパ系腫瘍の髄液/髄膜浸潤予防に準じ、メトトレキサート、シタラビン、プレドニゾロンの髄腔内投与が日常診療で広く行われています。一方で、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫では髄液/髄膜と脳実質の両方、特に脳実質により多く再発するため、原発性中枢神経系リンパ腫の標準治療に含まれる大量メトトレキサート療法を再発予防として組み入れた研究が行われてきています。しかし最適の予防方法はまだ明らかではありません。



研究代表者 山口 素子



研究事務局 宮崎 香奈

JCOG2201は、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の中の稀な病型で中枢神経系再発割合が高い血管内大細胞型B細胞リンパ腫の国内第II相試験で有望な治療効果が示された、髄腔内投与に加え治療早期に大量メトトレキサート療法を行う治療法を試験治療のベースとしています。さらに、2022年に国内導入された、R-CHOP療法のビンクリスチンを微小管阻害薬結合抗CD79bモノクローナル抗体薬 ポラツズマブベドチンに置き換えたポラツズマブベドチン併用R-CHP療法を基本化学療法としています。この化学療法は、本試験の対象患者さんが多く含まれると予想される患者集団での有用性が示唆されています。このような工夫により、脳実質と髄液/髄膜の両方に、治療早期に生じる中枢神経系再発をより少なくできると期待しています。試験治療がポラツズマブベドチン併用R-CHP療法と髄腔内投与による治療法より優れていることが証明されれば、対象患者さんの予後が改善し、標準治療が確立されます。

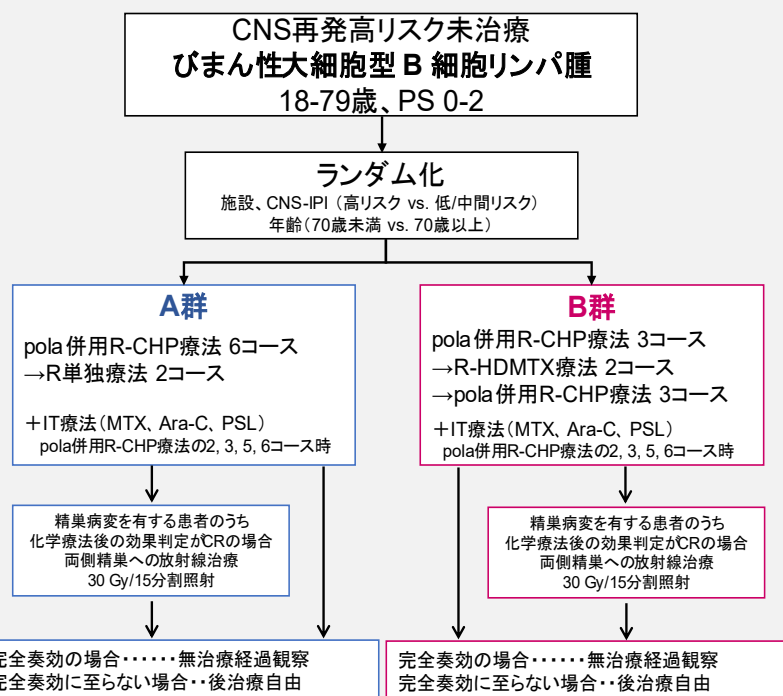
JCOG2201はびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の中中枢神経系再発予防治療において初となる、高レベルのエビデンスを確立しうる試験であり、グループ代表者の永井宏和先生のもと一丸となって取り組んでまいりたいと思います。試験の完遂・成功に向け、関係の皆様方には引き続きご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

JCOG2201研究代表者

三重大学医学部附属病院血液内科 山口素子

JCOG2201 研究事務局

三重大学大学院医学系研究科血液・腫瘍内科 宮崎香奈



FAQページをご利用ください

JCOG研究の実施手続きについては、JCOGウェブサイトのFAQページに掲載しています。

[各種登録情報の変更について](#)

[試験開始準備編](#)

[試験開始～終了編](#)

[臨床研究法・CRB手続き](#)

CATEGORY よくある御質問



よくある御質問



JCOG研究の論文公表



◇ 大腸がんグループ JCOG2006デザインペーパー 橋本 直佳先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37750332/>

A randomized phase II study comparing preoperative mFOLFOX6 versus FOLFOXIRI for locally advanced colon cancer: JCOG2006
Future Oncology, 2023 Sep 26, Online ahead of print.

◇ 肺がん内科グループ JCOG2007letter 白石 祥理先生 <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37666485/>

High incidence of cytokine-release syndrome in patients with advanced NSCLC treated with nivolumab plus ipilimumab
Annals of Oncology, 2023 Sep 2, Online ahead of print.

担当医別月間登録数



- ◇ 肺がん内科グループ(月間登録数:2)
堀池 篤先生/昭和大学病院
- ◇ 肺がん外科グループ(月間登録数:5)
宮田義浩先生/広島大学病院
- ◇ 胃がんグループ(月間登録数:4)
西田靖仙先生/恵佑会札幌病院
- ◇ 食道がんグループ(月間登録数:3)
川久保博文先生/慶應義塾大学病院
- ◇ リンパ腫グループ(月間登録数:2)
吉原享子先生/兵庫医科大学
牧山純也先生/佐世保市総合医療センター
- ◇ 大腸がんグループ(月間登録数:4)
池田 聡先生/県立広島病院
- ◇ 放射線治療グループ(月間登録数:3)
金尾健人先生/埼玉医科大学国際医療センター
- ◇ 脳腫瘍グループ(月間登録数:2)
木下 学先生/旭川医科大学
都築俊介先生/東京女子医科大学
- ◇ 肝胆膵グループ(月間登録数:2)
杉本元一先生/国立がん研究センター東病院
白川博文先生/栃木県立がんセンター
寺島健志先生/金沢大学医学部
亀井敬子先生/近畿大学病院
- ◇ 皮膚腫瘍グループ(月間登録数:2)
緒方 大先生/国立がん研究センター中央病院
面高俊和先生/信州大学医学部

(担当医別最多登録数が1例のグループは割愛しています)

グループごと月間登録数



登録数月次レポート

<https://secure.jcog.jp/DC/DOC/member/report/index.html>

グループ	7月	8月	9月	合計
大腸がん	64	60	69	193
肺がん外科	39	43	46	128
胃がん	40	40	52	132
肝胆膵	38	30	38	106
肺がん内科	20	23	27	70
食道がん	13	11	25	49
リンパ腫	11	18	8	37
乳がん	7	3	2	12
放射線治療	10	11	11	32
頭頸部がん	10	13	11	34
消化器内視鏡	7	7	6	20
脳腫瘍	10	8	10	28
泌尿器科腫瘍	15	10	7	32
皮膚腫瘍	2	4	8	14
骨軟部腫瘍	0	4	0	4
婦人科腫瘍	0	0	0	0
合計	286	285	320	891



JCOGデータセンターより

● 2023年9月の登録例は320例でした。

9月は6月以来の300例越えてました。8月と比較すると大腸がん、胃がん、食道がん、肝胆膵などの消化器系が特に好調でした。お忙しいところ、沢山のご登録ありがとうございます。

